

## 第2章 住民意向の把握

### 2-1

### 新しいまちづくりに関するアンケート調査

【第4次阿南市総合計画後期基本計画より】

#### (1) まちへの愛着度と今後の定住意向

市への愛着度については、「とても愛着を感じている」が35.4%、「どちらかというとな愛着を感じている」が49.5%で、これらを合わせた“愛着を感じている”という人が84.9%になっています。一方、「愛着を感じていない」「あまり愛着を感じていない」という人は計14.0%と1割強程度で、愛着度はかなり強いといえます。

また、今後の定住意向については、「ずっと住み続けたい」が64.3%、「当分は住み続けたい」が21.0%で、これらを合わせた“住み続けたい”という人が85.3%になっています。一方、「ぜひ移転したい」「できれば移転したい」という人は計7.4%と1割に満たず、定住意向もかなり強くなっています。

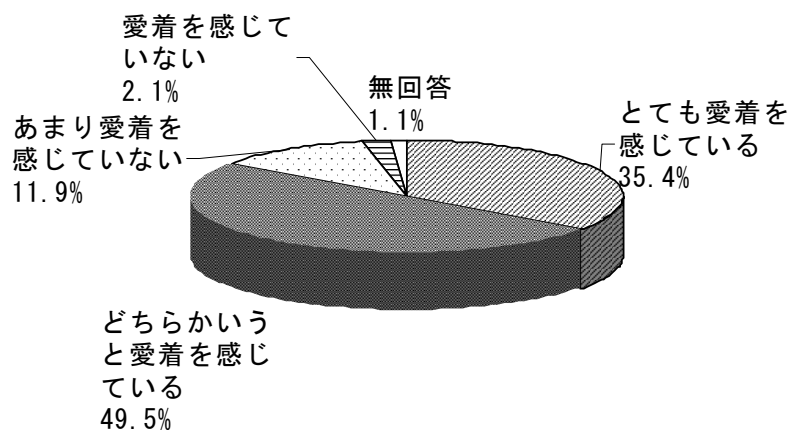


図2-1 まちへの愛着度

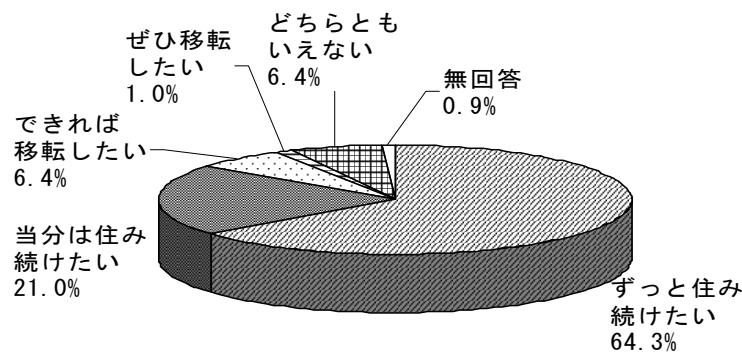


図2-2 今後の定住意向

## (2) まちの環境に対する満足度

まちの環境に対する満足度は、総合的にみると44項目のうち、評価が高い（プラス）項目は10項目、低い（マイナス）項目は33項目、中間が1項目になっています。

評価が高い項目は、上水道、保健・医療、就学前教育、人権の尊重、生涯学習などです。

評価が低い項目は、観光の振興、雇用環境、下水道、商業・サービス業の振興、道路・交通網などです

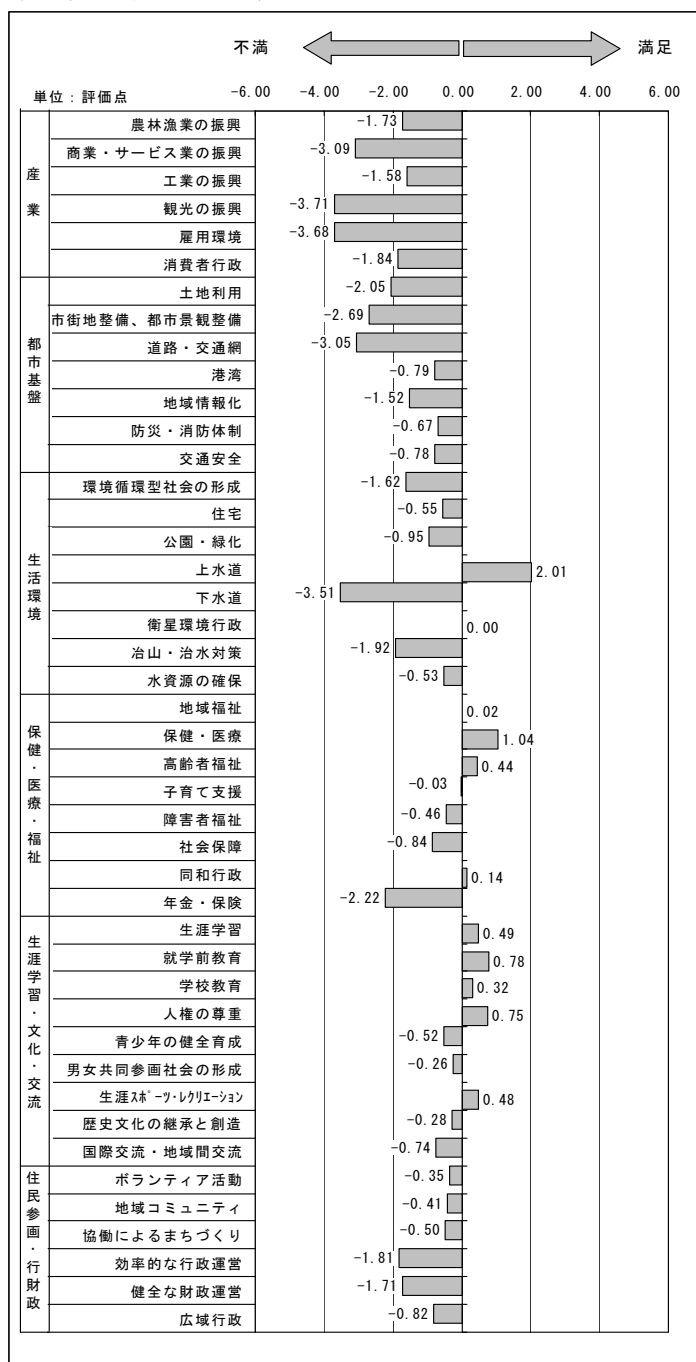


図 2-3 まちの環境に対する満足度  
(加重平均値による評価点分析)

### (3) 特に力を入れてほしい施策

特に力を入れてほしい施策は、第1位が「道路網の整備」で約37%、以下に「下水道・排水処理施設の整備」、「高齢者福祉の充実」、「若者の定住促進のための施策」が30%台で続いています。次いで、「医療体制の充実」、「ごみ処理・リサイクル体制の整備」、「消防・防災対策」、「児童福祉・子育て支援の充実」、「交通安全・防犯対策」、「公園・緑地の整備」などの順に回答が多くなっています。

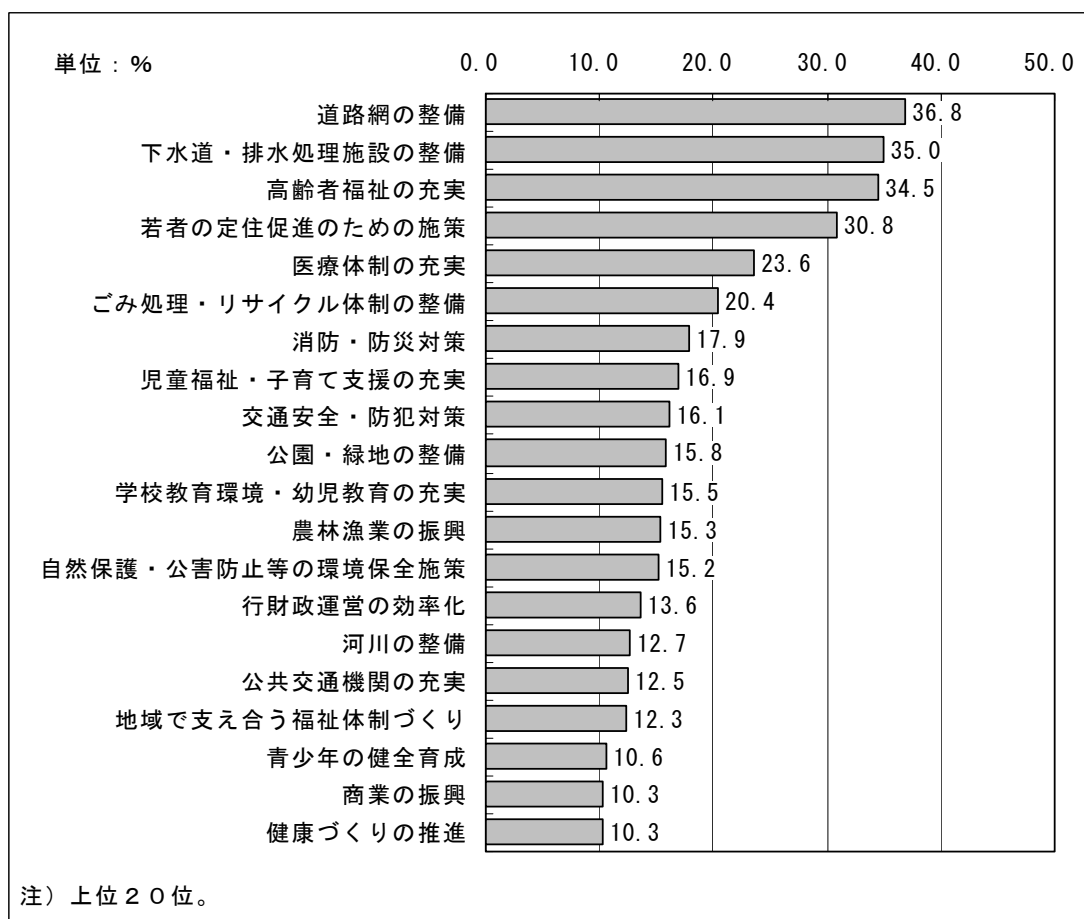


図2-4 特に力を入れてほしい施策

## 2-2

## 市民まちづくり意識調査（全体集計）

この調査は、20歳以上の市民3,000人（無作為抽出）を対象に、郵送方式により調査票を送付、回収して1,049人（35%）の回答を得ました。調査期間は平成20年8月1日～8月18日です。

### （1）買物や休日等の余暇活動をされている場所について

#### 1）食料品・日用雑貨の買物場所（複数回答）

食料品・日用雑貨の買物場所は、「阿南市の中心地」が23.7%、「旧那賀川町の中心地」が1.8%、「旧羽ノ浦町の中心地」が14.2%、「阿南市内の大型店舗など」が38.6%で、市内の合計は78.3%であり、市民の大部分は市内で買物をしています。

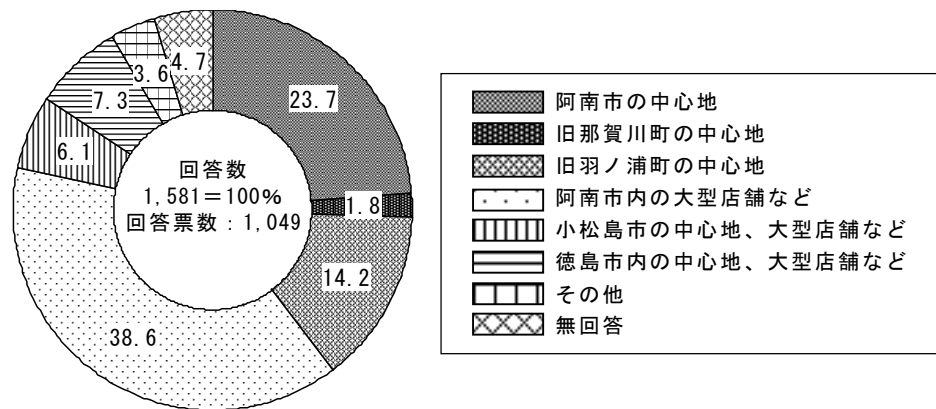


図2-5 食料品・日用雑貨の買物場所（複数回答）

#### 2）服等のファッション関係の買物場所（複数回答）

服等のファッション関係の買物場所は、「阿南市の中心地」が14.4%、「阿南市内の大型店舗など」が31.6%で、市内の合計は49.3%であり、市民の約半数が市内で買物をしています。一方、「徳島市内の中心地、大型店舗など」が29.4%と比較的多く、市民の35.5%が市外で買物をしています。

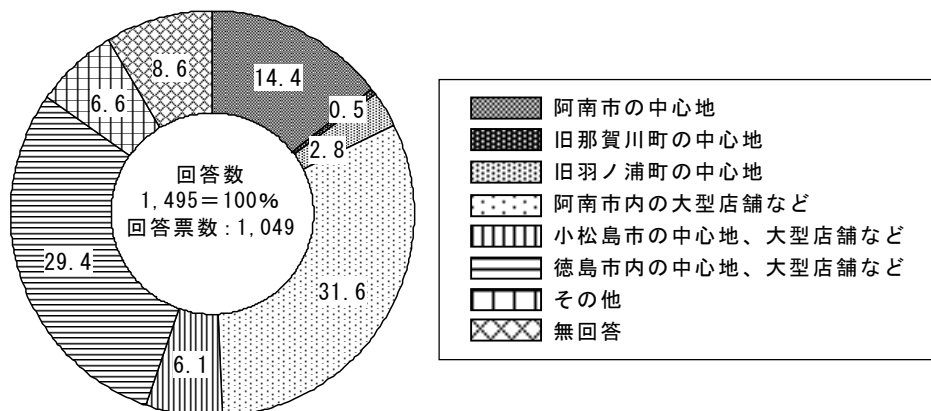


図2-6 服等のファッション関係の買物場所（複数回答）

3) 友人等との会合・会食をする場所（複数回答）

友人等との会合・会食をする場所は、「阿南市の中心地」が 33.4%、市内の合計は 50.2%であり、市民の約半数が市内で会合・会食をしています。一方、「徳島市内の中心地、大型店舗など」が 31.1%と比較的多く、市民の 38.2%が市外で会合・会食をしています。

4) 贈答品・高級品等の買物場所（複数回答）

贈答品・高級品等の買物場所は、「阿南市の中心地」が 16.9%、「阿南市内の大型店舗など」が 21.3%で、市内の合計は 41.7%であり、市民が市内で買物をする割合は約4割になっています。一方、「徳島市内の中心地、大型店舗など」が 35.9%と比較的多く、市民の 46.5%が市外で買物をしています。

5) 美術・演劇・映画・音楽会等の趣味・娯楽をする場所（複数回答）

美術・演劇・映画・音楽会等の趣味・娯楽をする場所は、「阿南市の中心地」が 10.7%で、市内の合計は 15.1%であり、市民が市内で趣味・娯楽を行う割合は2割に満たない状況です。一方、「徳島市内の中心地、大型店舗など」が 46.2%と比較的多く、「阪神地域の神戸市、大阪市など」が 9.5%で、市民の 56.9%が市外で趣味・娯楽を行っています。

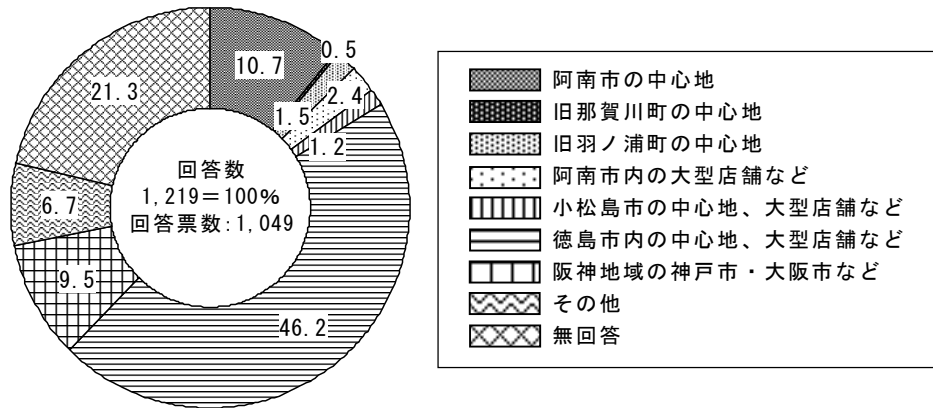
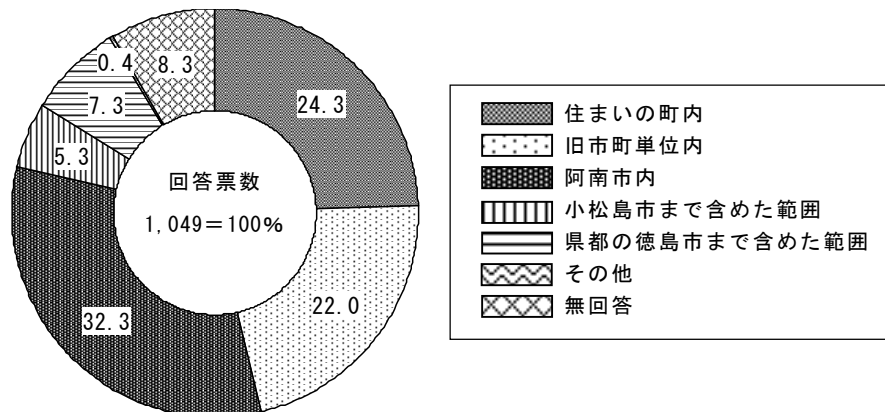


図2-7 美術・演劇・映画・音楽会等の趣味をする場所（複数回答）

## 6) 食料品の買物などの日常的な行動が満足できる範囲についての希望（単一回答）

食料品の買物などの日常的な行動が満足できる範囲についての希望は、市内の合計は78.6%になります。この希望割合は現状の行動（市内で買物をしている割合＝78.3%）とほぼ一致しています。



注) 構成比は四捨五入していることから、合計が100.0%にならない場合がある。

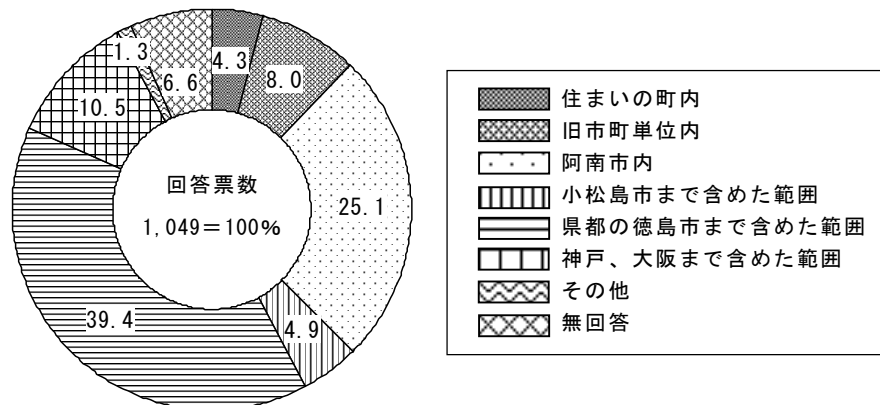
図2-8 日常的な行動が満足できる範囲についての希望（単一回答）

## 7) 高級品の購入、観劇などの趣味・娯楽の非日常的な行動が満足できる範囲についての希望（単一回答）

高級品の購入、観劇などの趣味・娯楽の非日常的な行動が満足できる範囲についての希望は、市内の合計が37.4%で、日常的な行動範囲に比べてほぼ半減しています。

また、この希望割合は、現状の行動（市内で非日常的な買物等をしている割合＝15.1%～50.2%）の平均値とほぼ一致していると推測できます。

一方、「県都の徳島市まで含めた範囲」が39.4%と比較的多く、市民の54.8%が市外を含めた範囲で行動できることを希望しています。この希望割合は、現状の行動（市外で非日常的な買物等をしている割合＝35.5%～56.9%）の平均値より多いと推測できます。



注) 構成比は四捨五入していることから、合計が100.0%にならない場合がある。

図2-9 非日常的な行動が満足できる範囲についての希望（単一回答）

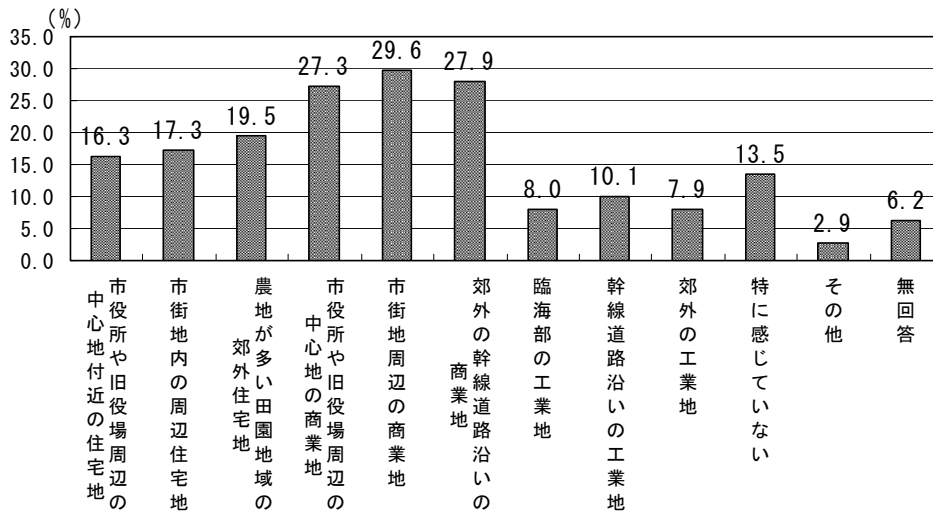
(2) 住宅地、商業地、工業地の今後の整備のあり方について

1) 都市づくりにおいて、今後重点的に整備を進めることが望ましい場所

(複数回答)

都市づくりにおいて、今後重点的に整備を進めることが望ましい場所は、土地利用区分別では商業地、住宅地、工業地の順序で選択率が多くなっています。

商業地では「市街地周辺の商業地」が29.6%で最も多く、住宅地では「農地が多い田園地域の郊外住宅地」が19.5%で多く、工業地では「幹線道路沿いの工業地」が10.1%で多くなっています。



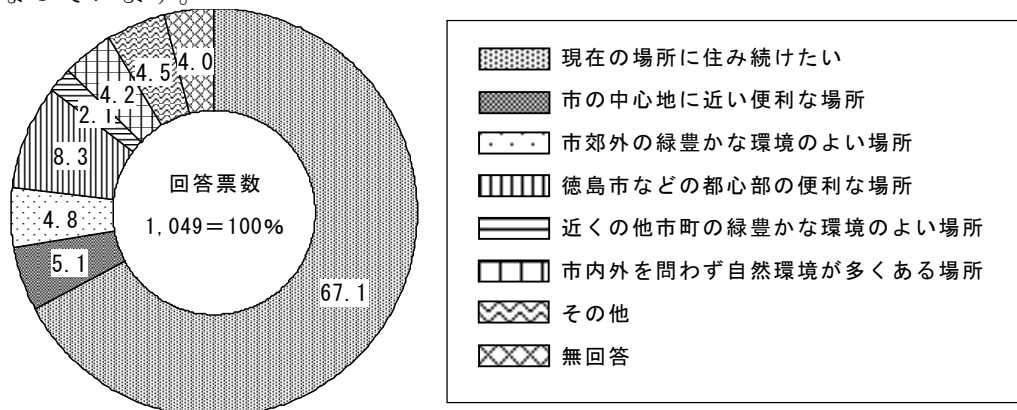
注：回答票数 1,049=100%としています。回答数は1,958です。

図2-10 今後重点的に整備を進めることが望ましい場所 (複数回答)

2) 今後、住みたい場所 (単一回答)

今後、住みたい場所は、「現在の場所に住みたい」が67.1%で、約7割と多くなっています。

また、「市の中心地に近い便利な場所」は5.1%、「市郊外の緑豊かな環境のよい場所」が4.8%で共に少ない一方、「徳島市などの都心部の便利な場所」が8.3%で幾分多くなっています。



注) 構成比は四捨五入していることから、合計が100.0%にならない場合がある。

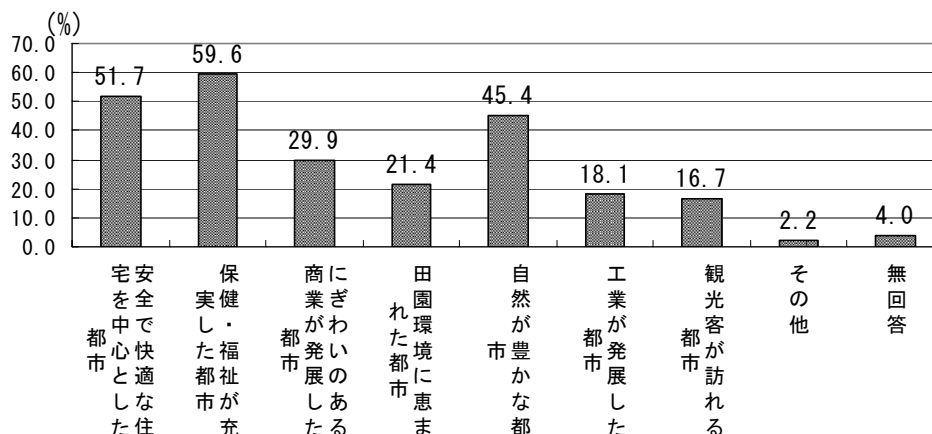
図2-11 今後、住みたい場所 (単一回答)

### (3) 阿南市やお住まいの地区の将来イメージについて

#### 1) 阿南市がめざすべき将来の都市像（複数回答）

阿南市がめざすべき将来の都市像は、「保健・福祉が充実した都市」が 59.6%、「安全で快適な住宅を中心とした都市」が 51.7%で、この2項目を過半数の人が選択しています。次いで、「自然が豊かな都市」が 45.4%の選択率で続いています。

一方、「にぎわいのある商業が発展した都市」は 29.9%、「田園環境に恵まれた都市」が 21.4%で、少ない状況です。



注：回答票数 1,049=100%としています。回答数は 2,612 です。

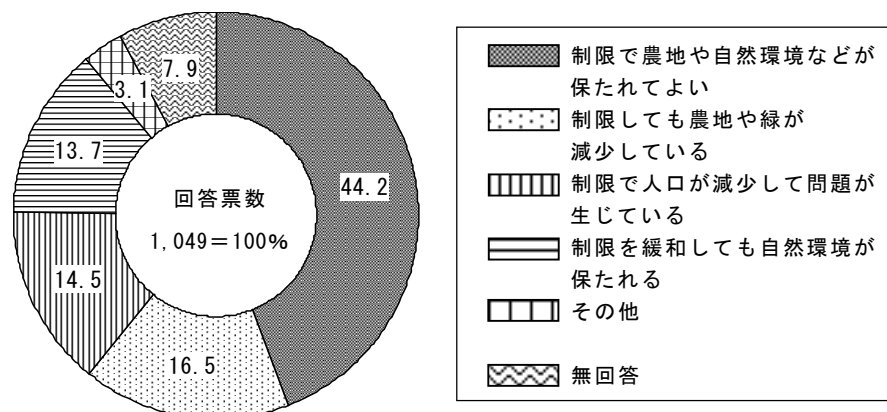
図 2-12 阿南市がめざすべき将来の都市像（複数回答）

### (4) 宅地開発や土地の利用について

#### 1) 阿南市において宅地開発を制限していることについての考え（単一回答）

阿南市において宅地開発を制限していることについての考えは、「制限で農地や自然環境が保たれてよい」が 44.2%で最も多くなっています。

一方、「制限しても農地や緑が減少している」が 16.5%、「制限で人口が減少して問題が生じている」が 14.5%、「制限を緩和しても自然環境が保たれる」が 13.7%で、制限に対する効果、問題点を指摘する考えもあります。



注) 構成比は四捨五入していることから、合計が 100.0%にならない場合がある。

図 2-13 宅地開発を制限していることについての考え（単一回答）



2) 宅地開発と農地・自然環境の保全のあり方についての考え（単一回答）

宅地開発と農地・自然環境の保全のあり方についての考えは、「自然環境の保全を図るべきである」が39.7%で最も多くなっています。

一方、「農山村部や山林では制限する必要はない」が20.5%、「住宅建設については抑制すべきでない」が11.4%、「宅地開発を抑制する必要はない」が10.2%で、宅地開発に対する制限の必要性等に異論がある考えもあります。

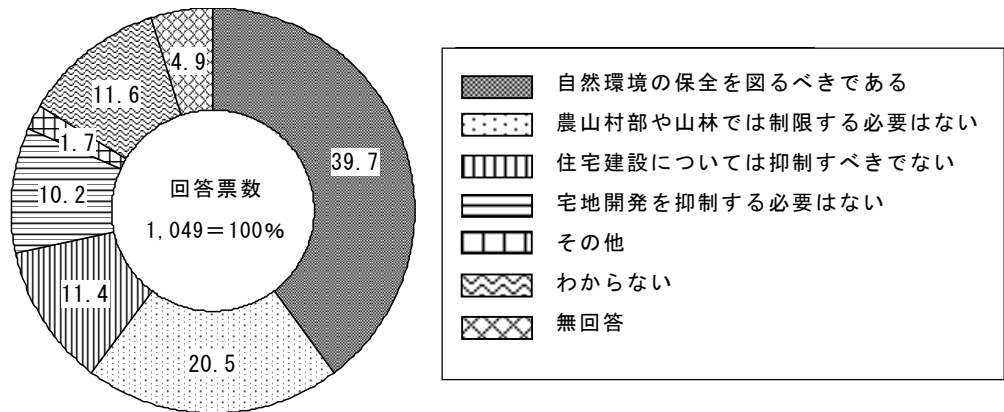


図2-14 宅地開発と農地・自然環境の保全のあり方についての考え（単一回答）

3) 都市づくりへの市民の参加方法についての考え（単一回答）

都市づくりへの市民の参加方法についての考えについては、「行政が市民の意見を反映して計画を実現」が45.9%、「行政が計画して市民が賛同した計画を実現」が30.7%で、行政が市民の意見を聞きながら計画づくりを進める意見が、76.6%と大部分を占めています。

一方、「市民が主体で行政は事業費等で支援」は14.4%で比較的少ない状況です。

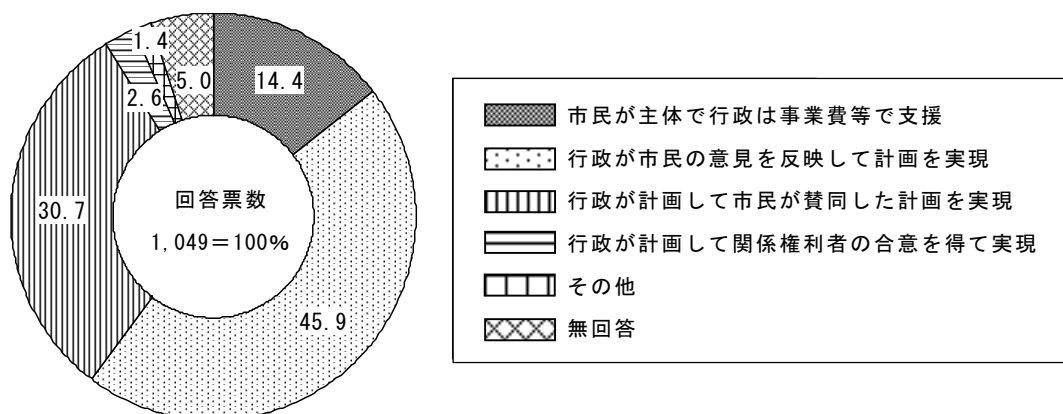


図2-15 都市づくりへの市民の参加方法についての考え（単一回答）